

ー令和元年度地域課題解決プログラムー  
地域スポーツを取り巻く社会環境の実態把握とコンテンツ化の可能性の模索

人間文化課程スポーツ科学プログラム 高倉優奈  
担当教員 浅沼道成

## 1. はじめに

スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得に寄与する他、人と人との交流及び地域と地域との交流を促進し、地域の一体感や活力を醸成するものであり、人間関係の希薄化等の問題を抱える地域社会の再生にも大きな影響を及ぼすものとされている。私自身、幼少期から身体を動かすことが好きで、様々なスポーツを経験してきたこともあり、上で述べたような「スポーツがもつ力」を身をもって実感すると共に、スポーツによるまちづくりに興味を抱くようになった。

本研究では、スポーツ振興と地域づくりをテーマに掲げ、岩手県紫波町企画課と地域の課題解決に向けた共同研究を実施した。研究においては、紫波町内における地域住民を対象とした運動・スポーツに関する質問紙調査、並びにスポーツ関係者に対するヒアリング調査を実施することで、町のスポーツ振興における課題を明らかにすると共に、スポーツを視点とした紫波町の今後の新たな可能性について検討することを目的とした。

## 2. 研究方法

### 2.1 質問紙調査

#### ① 調査内容

本研究の調査項目は、表 2-2 に示すように 1.個人的属性、2.運動・スポーツ活動、3.地域・社会におけるスポーツ、4.オガールエリアに関する計 30 項目である。運動・スポーツ活動、地域・社会におけるスポーツに関する項目は、内閣府及び、足利市教育委員会事務局市民スポーツ課の体力・スポーツに関する世論調査時に用いられた調査項目を参考に設定した<sup>5)</sup> <sup>6)</sup>。

#### ② 調査対象者

(1) 母集団：紫波町の住民 20 歳以

(2) 標本数：1080 人

(3) 抽出法：層化抽出

各世代の情報を結果に反映させるため、母集団は人口割ではなく、各年齢層の標本数を一律 180、全体を 1080 とし抽出した。

③ 調査期間 令和元年 11 月 15 日～12 月 6 日

④ 調査方法 住民基本台帳から無作為で抽出された満 20 歳以上の町民に対し、郵送で配布し、郵送で返信していただいた。

⑤ 回収結果 有効回答数 386 人 有効回収率 35.7% (表 2-1)

表 2-1 回答者のプロフィール 性別と年齢

		年齢						合計
		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	
性別	男性	15 8.4%	18 10.1%	21 11.7%	41 22.9%	41 22.9%	43 24.0%	179 100.0%
	女性	17 8.3%	23 11.2%	35 17.0%	33 16.0%	50 24.3%	48 23.3%	206 100.0%
合計		32 8.3%	41 10.6%	56 14.5%	74 19.2%	91 23.6%	91 23.6%	385 100.0%

表 2-2 調査項目

要因	調査項目
1. 属性表	(1) 性別 (2) 年齢 (3) 居住地
2. 運動・スポーツ活動	(1) 自身の健康状態 (2) 自身の体力 (3) 1年間の運動・スポーツ活動の有無 (4) 活動頻度 (5) 活動場所 (6) 活動時間 (7) 運動・スポーツをする目的 (8) 運動・スポーツをしない目的 (9) 1年間に行ったスポーツ種目・今後行いたいスポーツ種目
3. 地域・社会スポーツ活動	(1) 公共スポーツ施設に対する要望 (2) 総合型地域スポーツクラブの認知 (3) 総合型地域スポーツクラブへの加入 (4) 町内におけるクラブチームの認知 (5) スポーツチームの応援要因 (6) スポーツ振興に対する期待 (7) スポーツ振興に対する要望 (8) キャンプ誘致活動の認知 (9) バレーボールに対する関心 (10) バレーボール観戦イベントの認知 (11) バレーボール観戦イベントに関する情報収集方法 (12) バレーボール観戦のチケット料金 (13) スポーツ振興に対する意見・要望 (自由記述)
4. オガールエリア	(1) 利用頻度 (2) 利用施設 (3) イベントの参加有無 (4) 地域貢献度 (5) オガールエリアに対する意見・要望 (自由記述)

## 2.2 ヒアリング調査

- ① 調査内容 町のスポーツ振興における現状と課題，今後の展望について
- ② 調査対象者 体育協会，総合型地域スポーツクラブ，県サッカー協会
- ③ 調査期間 令和2年1月15日，22日
- ④ 調査方法 体育協会及び県サッカー協会には半構造化インタビューを実施し，総合型地域スポーツクラブについては，書面で設問に回答してもらう形式をとった。

## 3. 結果及び考察

### 3.1 自身の運動・スポーツ活動

#### ① 1年間の運動・スポーツ活動状況

表3-1，表3-2は，1年間に運動やスポーツを実施した有無について聞いた結果である。紫波町において，この1年間に何らかの運動を実施した人の割合は，54.4%だった。一方で全国の実施率は80.2%であり，紫波町の実施率は全国よりも大幅に下回っていることがわかった<sup>4)</sup>。また，文部科学省が策定しているスポーツ基本計画では，成人の週1回以上のスポーツ実施率は65.0%を目標としているが<sup>7)</sup>，紫波町においては，その目標値の半分程度の割合であることが明らかとなった。この結果から，今後，スポーツ参画人口を増やす取り組みをする必要があると考える。

表3-1 1年間の運動・スポーツの実施 年齢

		運動・スポーツ活動		合計
		実施	非実施	
年齢	20歳代	23 71.9%	9 28.1%	32 100.0%
	30歳代	18 43.9%	23 56.1%	41 100.0%
	40歳代	37 66.1%	19 33.9%	56 100.0%
	50歳代	35 47.9%	38 52.1%	73 100.0%
	60歳代	41 46.1%	48 53.9%	89 100.0%
	70歳以上	53 59.6%	36 40.4%	89 100.0%
合計		207 54.5%	173 45.5%	380 100.0%

表3-2 1年間の運動・スポーツの実施 性別

		運動・スポーツ活動		合計
		実施	非実施	
性別	男性	109 61.9%	67 38.1%	176 100.0%
	女性	97 47.8%	106 52.2%	203 100.0%
合計		206 54.4%	173 45.6%	379 100.0%

## ②運動・スポーツの種目について

運動・スポーツの実施者にこの1年間に実施した運動・スポーツを聞いたところ、紫波町で最も実施されていた種目は、男女共に「ウォーキング（歩け歩け運動、散歩など含む）」であり、その割合は男性51.9%、女性58.3%であった。2番目に多く実施されていた運動・スポーツに関しても性別によって変わらず、共に「体操（ラジオ体操、職場体操、美容体操、エアロビクス含む）」であり、男性33.3%、女性57.3%という結果が得られた。また、運動・スポーツの非実施者に今後行なってみたい種目を聞いた結果においても、男女共に「ウォーキング（歩け歩け運動、散歩など含む）」が最も高く、男性48.8%、女性60.0%、次いで、「体操（ラジオ体操、職場体操、美容体操、エアロビクス含む）」が高く、男性38.0%、女性50.0%であった。これらの結果から紫波町民は、簡単にできる軽めの運動・スポーツに対する関心が高いことが伺える。今後、町の運動・スポーツ実施者を増やす施策として、健康・体力づくりを意識した誰でも簡単に、楽しみながらできるような運動の場、そして各世代・性別のニーズにあった運動の場を提供することが有効であると考えられる。

## 3.2 地域や社会におけるスポーツ状況

### ①町の公共スポーツ施設に対する要望

町の公共スポーツ施設に対する要望を聞いた結果、「身近で利用できるよう施設数の増加」が最も多く、次いで「初心者向けのスポーツ教室や行事の充実」が多かった。その割合は28.1%、25.3%であった。町には多くのスポーツ施設があるにも関わらず、施設の増設を望む声が多い結果になった。町内の運動実施者の内、約半数の者が運動を道路や自宅で行っており、町内のスポーツ施設はほとんど使われていないことから、いつ・どこで・何ができるのかとった必要な情報が住民に行き届いていないことが考えられる。

### ②町のスポーツ振興に対する要望

スポーツ振興について、町に力を入れてもらいたいことを聞いたところ、「年齢層にあったスポーツの開発普及」が最も多く、次いで「スポーツ施設の整備」が多い結果となった。その割合は、39.6%、36.6%であった。「年齢層にあったスポーツの開発普及」では、高齢者向けの健康増進教室や親子向け運動教室の開催を望む声が多数寄せられていた。スポーツ施設の整備については、陸上競技場や野球場など紫波町総合運動公園の整備を求める声が多かった。町の公共スポーツ施設に対する要望の結果と照らし合わせても、やはり運動やスポーツをする環境の整備が課題であることが分かる。それらを含め、多様な年齢やライフスタイルに対応したプログラムサービスを充実させることも検討していく必要があると考える。

### ③総合型地域スポーツクラブについて

紫波町で活動している総合型地域スポーツクラブである「紫波ウイング」の認知度を調査したところ、「知っている」と答えた者は10.1%、「聞いたことがある」と答えた者は20.1%であり、それらを合わせても3割程度だった。この認知度は、同じく県内で活動している

「楽々クラブ矢巾」(87.0%)や「葛巻町スポーツクラブ」(60.1%)<sup>1)</sup>と比較すると、かなり低い結果となった。しかしながら、次に総合型地域スポーツクラブで自分が好きな運動やスポーツが行なわれていたら加入したいと思うか聞いた結果では、「思う」と回答した者は全体の39.1%で、「とても思う」と回答した者と合わせると約4割強の者が総合型クラブの加入に対して意欲的であることが分かった。中でも特に、20代から40代では半数を超えており、若い世代の加入意志が強い傾向がみられた。総合型クラブは、地域コミュニティの核として、スポーツ環境の充実や地域課題解決などの役割を果たしていくことが期待されているが、紫波町における総合型クラブは、地域住民にとってあまり馴染みがなく、その活動は浸透・発展していない現状が見受けられた。今後、地域コミュニティの核として機能していくためには、幅広い世代に対して積極的に情報発信を行なうと共に、各世代のニーズに合った多様なプログラムを提供していく必要があるといえるだろう。また、ヒアリング調査において、行政をはじめ、あらゆる主体との連携が不足していることも明らかとなっている。この結果は総合型スポーツクラブだけでなく、体育協会と県サッカー協会でも同様であり、スポーツ振興をする上で大きな課題であると感じた。あらゆる主体の連携を深めることも今後の重要な施策であると考えられる。

### 3.3 オガールエリアとスポーツ

#### ①オガールエリアのスポーツ施設

オガールエリアは開発が進み、今や地域の活性化に欠かせない場所となっている。しかしながら、よく利用されている施設は「ショップ・レストラン」や「町役場」であり、「スポーツ施設」について、その利用率は1割未満という結果となった。この結果から、オガールエリア内のスポーツ施設は、町民にとって馴染みのない存在であり、町のスポーツ振興には、あまり寄与していないことが明らかとなった。今後はオガールエリア内におけるスポーツ施設における広報活動を充実させた上で、施設の有効活用を図ることが重要であると考えられる。

#### ②バレーボールに関する関心

スポーツ施設に関連して、オガールエリアには国内でも有数のバレーボール専用体育館があることから、バレーボールに関心があるか聞いたところ、48.2%の者が「関心がある」と回答し、多くの紫波町民がバレーボールに関心があることがわかった。紫波町には、「岡崎建設 Owls」という全国でもトップクラスの社会人バレーボールチームがある。岡崎建設 Owls は、2019年に開催された全日本クラブカップ男子選手権大会で2014年、2017年に続き3度目の日本一を果たしており、多くの輝かしい成績を残している<sup>2)</sup><sup>3)</sup>。現代において、クラブチームが地域に設置され活躍することで地域活性化に貢献している事例が数多くあることから、紫波町においてもバレーボールが町を象徴するスポーツになることで同様の効果が期待できるのではないかと考える。今後、バレーボールが町にさらに浸透するよう、町民が気軽に参加できるようなバレーボールイベントを実施するとともに、広報活動の充実化を図ることもスポーツ振興を行なう上で重要な施策のひとつになってくるのではな

いだろうか。

#### 4. 総括

本研究では、スポーツ振興と地域づくりをテーマに掲げ、岩手県紫波町企画課との共同研究として、紫波町に住んでいる20歳以上の男女を対象に「運動・スポーツに関する意識調査」を実施すると共に、紫波町内におけるスポーツ関係者（体育協会・総合型地域スポーツクラブ・サッカー協会）にヒアリング調査を実施した。その目的は、町のスポーツ振興における課題を明らかにすると共に、スポーツを視点とした今後の町の新たな可能性について検討することにあった。

運動やスポーツ活動について、1年間に運動やスポーツを実施した者の割合は、54.4%、内週1日以上の実施率は31.6%であり、岩手県平均や全国調査よりも大幅に低かった。この結果より、運動やスポーツの実施について地域性の違いがあることが確認された。次に、実施者にはどのような運動やスポーツを行ったのか、非実施者には今後行ってみたい運動・スポーツはあるか聞いたところ、両者ともウォーキングと体操が高い割合を占めており、紫波町民は、簡単にできる軽めの運動を好む傾向があることが分かった。また、実施者に運動やスポーツを行う理由を聞いたところ、「健康・体力づくりのため」「楽しみ・気晴らしとして」を挙げる者が6割弱を占めており、競技スポーツではなく年齢や体力、ライフスタイルに応じて楽しみながら運動やスポーツに取り組んでいる者が多いということが示唆された。非実施者の運動やスポーツの阻害要因として最も多かったのは「仕事（家事・育児含む）」であった。これは他の調査と同様の結果であり、仕事等で忙しいという意識をどのように払拭していくか重要な課題なのではないだろうか。

地域や社会におけるスポーツについて、町の公共スポーツ施設に対する要望を聞いたところ、「身近で利用できるよう施設数の増加」「初心者向けのスポーツ教室や行事の充実」「利用案内など広報の充実」が高い割合を占めていた。本調査から多くの町民は、スポーツや運動を道路や自宅で行っていることが明らかとなっている。そのためか町のスポーツ施設はほとんど利用されておらず、町民にとって遠い存在となっているのが現状であった。今後、町民にとって町のスポーツ施設が身近な存在となるよう、いつ・どこで・何ができるといった広報活動を充実させ既存のスポーツ施設の有効活用を図ると共に、各個人のニーズに応じた運動やスポーツができる、新たな場の提供を検討すべきであると考えられる。つぎにスポーツ振興において、どのようなことに力を入れてもらいたいと聞いた結果では、「年齢層に合ったスポーツの開発普及」が最も高く、全体の約4割を占めていた。これは自由記述からも伺え、「高齢者向けの健康増進教室」「親子向けのスポーツ教室」「日中、仕事している人向けのスポーツ企画」等を実施してほしいといった声が複数寄せられていた。これらより、地域住民に対するプログラムサービスを充実させ、多様な年齢やライフスタイルに対応した教室や研修等を開催すべきではないだろうか。また、総合型地域スポーツクラブについてであるが、「紫波ウイング」の認知度は全体の約3割程度にとどまり、紫波町民にはあまり馴染みがなく、その活動は浸透・発展していないという現状が示唆された。総合型地域スポーツクラブは、地域スポーツ環境の充実や、スポーツを通じた地域課題解決など公益的な取組

みを通じて、地域住民から求められる役割を果たすことが期待されており、地域コミュニティの核として重要な存在となっている。紫波ウイングもそういった存在となるよう、地域住民に対するプログラム及び広報活動を充実させると共に、公的機関や組織と連携し、それぞれの役割を明確化したうえで活動・運営していく必要があると考える。

最後に、オガールエリアについて、オガールエリアは紫波町の活性化に貢献していると思うか聞いたところ、全体の75.2%の者が「とても思う」「思う」と回答しており、オガールエリアは地域の活性化に欠かすことのできない存在であり、老若男女問わず多くの者から支持されていることが示唆された。しかしながら、オガールエリアにおけるスポーツ施設及びスポーツイベントは特定の町民、あるいは他町、他県の者による利用がほとんどであり、地域住民にとっては馴染みのない存在となっているのが現状であった。オガールエリアが町のスポーツ振興に寄与するためには、施設の有効活用を踏まえ、何らかの施策を検討していくべきだと考える。その施策を推し進めてく中で、総合型地域スポーツクラブの可能性、そして、例えばオガールエリアとバレーボール種目の組み合わせなどをコンテンツとして開発する可能性が示唆された。

本研究で明らかとなった町のスポーツ実態及び、スポーツ振興における課題に対して、公的機関をはじめ、体育協会、総合型地域スポーツクラブ、種目別協会、スポーツ少年団等が結束を深め、地域住民を巻きこんだ取組みを強化することで、地域がより活性化し、それが更なる町の成長へと繋がるのではないだろうか。

#### 《参考・引用文献》

- 1) 浅沼道成 (2019) 「子育て世代における運動やスポーツ実施の阻害要因の検討ー岩手県矢巾町と葛巻町を事例としてー」岩手大学人文社会科学部紀要, p. 10
- 2) OGAL ホームページ, <http://ogal.jp/> (閲覧日: 2019年10月1日)  
岡崎建設 Owls VBC facebook,  
<https://www.facebook.com/pg/GangQiJianSheOwlsVbcCommunity/posts/>  
(閲覧日: 2019年12月25日)
- 3) 岡崎建設 Owls VBC ホームページ, [okazaki-const.sakura.ne.jp/wordpress/](http://okazaki-const.sakura.ne.jp/wordpress/)  
(閲覧日: 2019年12月25日)
- 4) スポーツ庁 (2019) 「「スポーツの実施状況等に関する世論調査」について」
- 5) 栃木県足利市 市民スポーツ課 (2017) 「運動・スポーツ意識調査」
- 6) 内閣府 (2013) 「体力・スポーツに関する世論調査」
- 7) 文部科学省 (2011) 「スポーツ基本法」

# 地域スポーツを取り巻く社会 環境の実態把握とコンテンツ 化の可能性の模索

— 地域住民意識調査から —

平成28年度入学

岩手大学人文社会科学部人間文化課程

スポーツ科学プログラム H0116071 高倉優奈

指導教員 浅沼道成

## 研究方法

### 1. アンケート調査

**内容**：個人的属性，運動・スポーツ活動，地域・社会におけるスポーツ  
オパールエリアに関する計30項目

**対象者**：紫波町の住民，20歳以上，1080人

**期間**：令和元年11月15日～12月6日

**方法**：住民基本台帳から無作為で抽出された満20歳以上の町民に対し，  
郵送で配布

**回収結果**：有効回答数 386人      有効回答率 35.7%

## アンケートの調査項目

要因	調査項目
1. 属性表	(1) 性別 (2) 年齢 (3) 居住地
2. 運動・スポーツ活動	(1) 自身の健康状態 (2) 自身の体力 (3) 1年間の運動・スポーツ活動の有無 (4) 活動頻度 (5) 活動場所 (6) 活動時間 (7) 運動・スポーツをする目的 (8) 運動・スポーツをしない目的 (9) 1年間に行ったスポーツ種目 今後行いたいスポーツ種目
3. 地域・社会スポーツ活動	(1) 公共スポーツ施設に対する要望 (2) 総合型地域スポーツクラブの認知 (3) 総合型地域スポーツクラブへの加入 (4) 町内におけるクラブチームの認知 (5) スポーツチームの応援要因 (6) スポーツ振興に対する期待 (7) スポーツ振興に対する要望 (8) キャンプ誘致活動の認知 (9) バレーボールに対する関心 (10) バレーボール観戦イベントの認知 (11) バレーボール観戦イベントに関する 情報収集方法 (12) バレーボール観戦のチケット料金 (13) スポーツ振興に対する意見・要望（自由記述）
4. オガールエリア	(1) 利用頻度 (2) 利用施設 (3) イベントの参加有無 (4) 地域貢献度 (5) オガールエリアに対する意見・要望（自由記述）

## 2. ヒアリング調査

**内 容**：町のスポーツ振興について（課題、今後の展望など）

**対象者**：体育協会，総合型地域スポーツクラブ，県サッカー協会

**方 法**：体育協会及び県サッカー協会には半構造化面接を実施  
総合型地域スポーツクラブについては書面での回答

## 結果及び考察

### 運動・スポーツ活動について

#### 【運動・スポーツ実施率】

1年間：（紫波町） 54.4% 男性61.9% 女性47.8%  
（全 国） 80.2%

週1日以上：（紫波町） 31.6%  
（全 国） 55.1%

紫波町民の運動・スポーツ実施率は全国より大幅に下回ってる

#### 【運動・スポーツの種目について】

実施者	1年間に行った運動・スポーツ
非実施者	今後行ってみたい運動・スポーツ



「ウォーキング」・「体操」が高い割合を占めた

紫波町民は気軽で簡単にできる軽度の運動に関心あり

## 地域・社会におけるスポーツについて

### 【町の公共スポーツ施設に対する要望】

「身近で利用できるよう施設数の増加」 (28.1%)

「初心者向けのスポーツ教室や行事の充実」 (25.3%)

- ・ 町には多くのスポーツ施設があるにも関わらず施設の増設を望む声多数
- ・ 町のスポーツ施設は町民からほとんど利用されていない現状

半数以上の町民は道路や歩道、又は自宅を利用していた



町民に必要な情報が行き届いていないのでは！？

### 【スポーツ振興において町に力を入れてもらいたいこと】

「年齢層に合ったスポーツの開発普及」 (39.6%)

高齢者向けの健康増進教室  
親子向け運動教室  
日中、仕事している人向けの企画開催

「スポーツ施設の整備」 (36.6%)

陸上競技場、野球場、サンビレッジ・紫波



- ◎地域住民に対するプログラムサービスの充実化
- ◎気軽に運動・スポーツができる環境整備

## 【総合型地域スポーツクラブについて】

「紫波ウイング」の認知度 31.2%

「楽々クラブ矢巾」 87.0% 「葛巻町スポーツクラブ」 60.1%

## 【総合型地域スポーツクラブへの加入意志】

「思う」+「とても思う」 44.5%

特に若い世代の加入意欲が高い傾向

- ◎ 幅広い世代への積極的な情報発信
- ◎ 各世代のニーズに合ったプログラムの提供

## オガールエリアのスポーツについて

### 【オガールエリアのスポーツ施設】

オガールエリア利用率 79.5%

よく利用されているのは「ショップ・レストラン」「町役場」  
「スポーツ施設」の利用率は1割未満

スポーツ施設は町民にとって馴染みのない存在



広報活動を充実させ既存のスポーツ施設の  
有効活用を図る必要あり

## 【バレーボールに関する関心】

「とても関心がある」＋「関心がある」 48.2%

- ・ 約半数の者がバレーボール関心あり
- ・ 全国でもトップクラスの社会人バレーボールチーム「岡崎建設Owls」

バレーボールが町を象徴するスポーツとなる  
ことで地域活性化に貢献するのでは！？

しかし...オガールアリーナでの観戦イベントを知っている割合は約3割程度  
いまいち町民にバレーボールは浸透していない



- ◎ 町民が関心を持つようなイベントの実施
- ◎ 広報活動の充実化

## 参考文献等

- 1) 浅沼道成 (2019) 「子育て世代における運動やスポーツ実施の阻害要因の検討－岩手県矢巾町と葛巻町を事例として－」岩手大学人文社会科学部紀要, p. 10
- 2) 一般財団法人紫波町体育協会ホームページ, <https://www.gymna-shiwa.jp/facility> (閲覧日: 2019年10月1日)
- 3) 岩手県紫波町ホームページ, <http://www.town.shiwa.iwate.jp/chosei/kocho/3/> (閲覧日: 2020年1月6日)
- 4) OGALホームページ, <http://ogal.jp/> (閲覧日: 2019年10月1日)  
岡崎建設Owls VBC facebook, <https://www.facebook.com/pg/GangQijianSheOwlsVbcCommunity/posts/> (閲覧日: 2019年12月25日)
- 5) 岡崎建設Owls VBC ホームページ, [okazaki-const.sakura.ne.jp/wordpress/](http://okazaki-const.sakura.ne.jp/wordpress/) (閲覧日: 2019年12月25日)
- 6) 菊幸一・齋藤健司・真山達志・横山勝彦 (2011) 「スポーツ政策論」成文堂
- 7) スポーツ庁 (2017) 「平成29年度スポーツ庁政策調査研究 (総合型地域スポーツクラブの登録・認証等の制度整備に関する調査研究)」p. 1
- 8) スポーツ庁 (2018) 「平成30年度総合型地域スポーツクラブ育成状況調査」
- 9) スポーツ庁 (2019) 「「スポーツの実施状況等に関する世論調査」について」
- 10) 田村明 (1987) 「まちづくりの発想」岩波書店, p. 23
- 11) 田村明 (1987) 「まちづくりの発想」岩波書店, p. 52
- 12) 田村明 (1987) 「まちづくりの発想」岩波書店, p. 28
- 13) 田村明 (1987) 「まちづくりの発想」岩波書店, p. 153
- 14) 田村明 (1999) 「まちづくりの発想」岩波書店, p. 197-200.
- 15) 栃木県足利市 市民スポーツ課 (2017) 「運動・スポーツ意識調査」
- 16) 内閣府 (2013) 「体力・スポーツに関する世論調査」
- 17) 内閣府 (2017) 「高齢者の健康に関する調査 (医療・福祉に関する事項)」
- 18) 中沢孝夫 (2003) 「〈地域人〉とまっぴくり」講談社現代書籍, p. 30
- 19) 長積仁 (2006) 「スポーツ経営学 改訂版」大修館書籍, p. 295
- 20) 船井幸夫 (2006) 「まちはよみがえる」ビジネス社, p. 152
- 21) 松野光範・横山克彦 (2011) 「まちづくりとスポーツの関係性－第4次壮瞥町まちづくり総合計画を事例に－」同志社政策科学研究12 (2), p. 49-62
- 21) 文部科学省 (2011) 「スポーツ基本法」